

らんちう界を代表する萩谷富士夫氏・浅野敏夫氏はさんみの赤虫です



茨城県水戸市
萩谷富士夫氏



広島県福山市
浅野敏夫氏

東西の雄

誰もが羨むみごとなホウラン、頭を作らせれば右に出る者はいない。ここ数年人気を独占しているのが萩谷富士夫さん、当歳と二歳での東大関は一気に萩谷ブームを作り上げた。

「頭はエサですよ赤虫ですよ」という萩谷さんは我が社の赤虫を使って頂いている。その量は半端ではなく昨年一年間：と言っても半年だが軽く1トンを超えて1344kgという驚異的な数字だ。

独特の飼育法だが、その飼育法から生まれる萩谷流ホウラン、まだまだこの人気は続きそうだ。

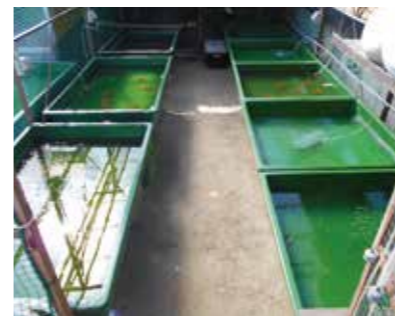
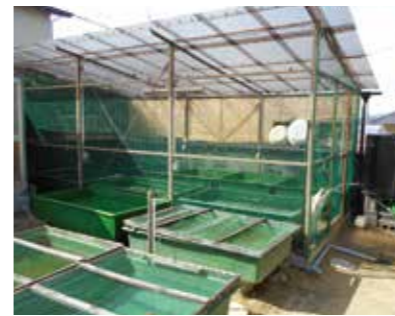


表紙の魚はH28年(社)日本らんちう協会第61回全国品評会で、審査員全員が満点を出して見事当歳魚で東大関を獲得した浅野さんの魚。誰もが認めるらんちう史上に残る名魚で、全ての話題をさらった。



第57回全国品評大会
二歳魚・東大関

日本らんちう協会
第55回全国品評大会 当歳魚・東大関
第57回全国品評大会 二才魚・東大関
第58回全国品評大会 当歳魚・東取締



日本らんちう協会
第46回全国品評大会 当歳魚・東大関
第48回全国品評大会 当歳魚・東大関
(社)日本らんちう協会
第61回全国品評大会 当歳魚・東大関

浅野さん自身当歳魚三度目の東大関の快挙。

さんみの赤虫を使用、評価を頂いている。金砂のシリリンプに始まり赤虫：ご本人も「この魚はさんみの赤虫だけで育ちました」との嬉しい言葉を頂いている。

飼育の規模は決して大きくはないが、独特の感性と努力は他の追従を許さない。史上初四度目の東大関を願う！